

U.S.A / JAPAN JOINT FORUM 2012

米国における3機能病院の変遷と日本の病院

約4年前に米国で長期急性期(LTAC)病院を視察して“目から鱗”を感じました。その後3年間、米国のLTAC病院を続けることで、日本でも長期急性期医療(LTAC)の概念と実態が必要ではないかと思ってきました。

米国の場合、短期急性期(STAC)病院の平均在院日数は5日を切ろうとしており、高齢化によって増え続ける患者の受け皿として、平均在院日数ほぼ25日の長期急性期(LTAC)病院が登場、急速に増加の一途をたどっています。

一方で、日本の急性期医療は「5+25」ではなく「10+20」位となり、さらにリハビリテーション医療が加わって「疾病」が治癒、安定に向かっていくものと思考しております。平均在院日数が30日となることは、人類共通だと思います。

今回は、日本慢性期医療協会の後援も得て、セミナーを開催することと致しました。ご関心のある方は、米国の話ではありますが、聴かれたらよいと思っております。

岡田 玲一郎

演者の都合により東京会場は第2部と第3部が入れ替わります。



第1部 10:00~10:20 「なぜLTACを採りあげたのか」

社会医療研究所 所長 岡田 玲一郎



第2部 10:20~12:00 「アメリカにおけるLTACの推移とLTAC病院」

Mr. Rajive Khanna グレース病院(オハイオ州クリーブランド、LTAC病院)
プレジデント兼チーフエグゼクティブ

LTAC病院の経営者として、米国でのLTAC病院の歴史と経緯をプレゼンテーションしてもらいます。



第3部 13:00~14:30 「STAC、LTACの関係とリハビリテーションとのつながり」

Dr. Gary S. Clark ケースウェスタンリザーブ大学 理学療法リハビリテーション部教授
メトロヘルス メディカルセンター(オハイオ州クリーブランド、STAC病院・リハ施設を有する)
研修医指導部長 医療メディカルディレクター リハビリテーション研究所所長

急性期病院の医師の立場から、STAC(短期急性期ケア)からLTACへの流れ、さらにはリハビリテーションとの関係についてプレゼンテーションしてもらいます。



第4部 14:40~15:10 「ヘルスケアMBAからみたLTAC」

Dr. Lee Pickler ボルドウィン・ウォラス大学 経営学教授(オハイオ州)

ヘルスケアMBAの教授として、LTACのビジネスアドミニストレーションの評価についてプレゼンテーションしてもらいます。



第5部 15:15~16:00 「日本の慢性期医療からみたLTAC」

日本慢性期医療協会 会長 武久 洋三氏

日本の慢性期医療の提供者としての立場から、日本の長期急性期医療の展望を解説してもらいます。

各講師のプレゼンテーションの内容についての文責は岡田にあります。

【主催】 社会医療研究所

【共催】 一般社団法人日本慢性期医療協会 はあとふるグループ医療法人永広会
社会医療法人ベガサス馬場記念病院 株式会社ヘルスケア経営研究所

【後援】 社団法人大阪府私立病院協会(申請中)

< 大阪会場 >

日時：2012年1月21日(土)
10:00~16:00 (受付開始9:30)
会場：マイドーム大阪 地図は裏面参照

< 東京会場 >

日時：2012年1月22日(日)
10:00~16:00 (受付開始9:30)
会場：東医健保会館 地図は裏面参照

参加費(両会場共通) 一般 10,000円(お二人目以降 5,000円) 学生 5,000円

お申込み方法及び会場の詳細は裏面をご覧ください。